

事業所名： 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット①)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット①)		
所在地	〒020-0866 盛岡市本宮6丁目14-12		
自己評価作成日	令和5年12月6日	評価結果市町村受理日	令和6年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりに合わせた生活があり、状況や要望に応じて対応している。・会話を通して笑顔を引き出したり、安全に安心して生活できるよう、利用者とスタッフが協力し合いながら暮らしている。・季節に応じた行事を行っている(夏祭り・敬老会・忘年会・誕生会・芋煮会・クリスマス会・みずき団子作りなどなど)・毎食手作りし利用者、スタッフが一緒に家庭的な雰囲気ですべてしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

盛岡市の西南部に位置する2階建ての2ユニットの事業所である。周辺には病院や医院、介護施設があり、医療と福祉、介護との連携が出来上がっている。終末期の対応は職員全員が経験しており、訪問診療医や訪問看護師との連携のもとで、利用者・家族の希望に十分に答えることができています。開設時に職員で決めた「みんなの和・輪・話を大切に毎日笑いのある楽しい生活を目指します」の理念を、利用者一人一人の想いに添えるよう日々ケアの実践に活かしている。事業所の近隣住民を始め、地区自治会との協力が日常的に行われ、地区で運営している花壇が事業所にも割り当てられ、事業所で水遣り等ができないときには、他の住民が代わってやってくれている。また、職員会議や個人面談、アンケートの実施により、職員の提案や勤務条件などの要望等を聴き取り、行事や施設の整備、職員の資質の向上を図り、より充実した介護サービスの提供に努めている。加えて、コロナ禍にあつて、その動向を見ながら、ボランティアの受け入れなど地域住民との交流にも積極的に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年1月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名：岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は共有スペースに掲げ意識している。ミーティングのレジュメにも掲げ共有している。毎日、穏やかに、仲良く、楽しく生活をしている。	開設当初から掲げている「この本宮地区で、みんなの和・輪・話を大切に、毎日笑いのある楽しい生活を目指します」とする理念は、事業所にすっかり定着し、職員にも馴染んだものになっている。この理念を基礎に年度目標を立て、家族的な雰囲気大切に利用者へ寄り添い、利用者の意向を聴き取り、利用者本意の介護サービスを提供している。	事業所理念を壁に掲示し、職員が日常的に確認できるようになっているが、活動目標等、検討した内容も日常的に確認できるように工夫することで、より理念の実践に結びつけることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	絵本の読み聞かせが復活し毎月1度行っている。花壇の整備には、毎年参加させて頂き、地域の皆様にお世話になっている。お米は地域の方から購入している。ご近所への挨拶も積極的に行っている。	本宮町内会に加入している。町内会活動の一つでもある花壇が事業所に割り当てられ、その手入れを住民の協力のもとで行っている。また本の読み聞かせのボランティアが月に1回訪問している。近所の方から使わなくなった紙おむつの提供があるなど、地域に溶け込んだ運営を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訪問時等の相談には随時対応している。運営推進会議では事例の検討をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一人暮らしの方の施設入居の手順は？精神病の強い方が、入院出来ないがどうすればいいのか？認知症の家族の対応方法は？等々、相談や意見交換をしている。	町内会長、民生委員、市介護保険課、家族がメンバーとなり2か月に1回開催している。事業所からは利用者の近況等を報告し、その報告等に対する意見や質問等は、認知症などに対するメンバーの理解にも繋がっている。委員から地域の動きや感染症対策などの助言や提案があり、業務に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。電話やメール交換をし、アドバイスを頂いている。直接市役所へ出向いたりしている。	運営推進会議では市の担当者から情報提供、助言を得ているほか、要介護認定申請のため市の窓口に出かけたときにも様々な情報提供をいただいている。生活保護担当者との交流・連携の機会もある。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。玄関の施錠も行っていない。定期的(カンファレンス等)に検討会を開いている。年1度研修も行っている。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催している。研修は年に1回、勉強会はミーティング検討会と併せて3か月毎に行っている。今年度は職員に身体拘束についてのアンケートを実施し、それを受けての検討会を開催して身体拘束についての職員の理解を深めることが出来たとしている。身体拘束の事例は無いが、尿道カテーテルの使用が支障なくできるように設置した柵やスピーチロックなど、気が付いた時には職員間で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティング、カンファレンス、日々のケア時等で虐待にならないようスタッフ間で声を掛け合い対応している。ニュース等で事例があった場合は、随時話し合いを行い注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されていた方がいたため理解はしている。必要となる場合には実行されるまで長期間要するので対象となる方については、早めに対応するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時前には来所して頂いたり、ご本人、ご家族と面会し、施設の説明をし、納得されてから入居していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話、運営推進会議等で意見を聞いている。身寄りのない方が看取りになった時に親族の方が来られお引き受けいただいた例があった。グループホームを理解せず親を入居させたが運営推進会議やスタッフからの情報を聞いて、やっと理解出来たというご家族がいた。	面会や運営推進会議で来所したり、家族に電話連絡した際に意見を伺っている。病院受診時に主治医に伝える内容を直接主治医にFAXして欲しいとの意見があり、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員不足は続いているが2名入職された。福祉部会、総務部会、理事会等で提案する機会はある。	カンファレンスや全体ミーティングの機会を通じ、職員個々の意見等を聴き取り、職員アンケートを通じ職員全員の意見を把握している。職員の提案や研修参加の希望などを基礎に、日々の業務に活かしたり、資格取得の支援などに反映させている。	

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が増えた事で、働きやすい状況になれば良いと思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ前までには戻らないが、研修に参加出来る機会は増えている。全体ミーティングやカンファレンス等で報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することで、交流できている。参考になる事柄については検討しながらすぐ出来ることから始めるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話を多くし、不安なこと、助けて欲しい事等を傾聴し安心して生活していただけるよう話し合っている。言葉で表現出来ない方は、目の動きや表情などでくみ取るように心がけている。入居して2か月経過していないが、とても穏やかに生活されている方もいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には施設見学して頂いている。困っている事、不安な事等を聞き出し、どうすればいいかを話し合い、対応するようにしている。状況の変化等はすぐ報告し早い対応に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と離れる事が不安な利用者、家族には安心してもらえるよう、面会や外出、外泊をすすめている。転居を多く経験した方が、「また出されるのではないかと心配されているが、転居しなくても良い事を時にふれ伝えている方がいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般について、出来る事はなるべくご本人にやってもらい、出来ない事は介助しながら一緒に行う事に行っている。お互いに感謝の気持ちを伝えながら生活している。		

事業所名：岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診は原則ご家族にお願いしている。日々の様子を面会時、LINE等で報告し相談したりしている。ご家族のご協力がないと穏やかな生活を送ることは出来ないと思っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や美容院など馴染みの場所などは関係を続けられるようにしている。若い頃に一緒に仕事をしたという方が面会に来られている。	前職員による買物支援や利用者の教え子によるボランティアなどを受け入れている。テレビ電話で家族と連絡を取っている利用者もいる。外出が難しいなか、娘からのコウセンの粉のお菓子を手に取り昔を懐かしんでいる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士が声を掛け合ったり、助け合ったりする場面が増えている。スタッフも混じり話し楽しい時間になっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された方の対応方法等の相談があり何度か対応した。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床時間や就寝時間、居室で過ごされたい時、みんなと一緒に居たい時等々、それぞれ利用者さんが自己決定できている。困難な場合でも表情などで判断し、拒否がある場合は、止める。時間を置いて対応するようにしている。	ほとんどの利用者は言葉によるコミュニケーションが出来、家に行きたい、歩きたいなどの希望を話している。コミュニケーションが困難な利用者については、表情等でも確認するようにしている。日記や塗り絵、水彩画など、個人の趣味にも配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報提供や家族、利用者との会話の中から把握して共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や水分補給の時間はほぼ決まっているが、それ以外の時間はそれぞれ自由である。心身状態等、変化ある場合には、すぐ対応するようにしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度、見直しを含めた介護計画をたてている。落ち着いた生活が出来ない方の過ごし方について、カンファレンスで話し合い、ご家族や専門医の協力を得るなど介護計画を見直している。	3か月ごとに評価し、見直している。評価する際のモニタリングは日々の状態をチャートに記録し、その状況を職員全員で検討して行っている。家族の意向は訪問時や電話で確認している。医療的な支援が必要な場合には、主治医や訪問看護師の意見を得て介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化があった場合、チャートや申し送り等で共有している。利用者さんが困っていれば家族と相談し改善できるようにしている。排便・排尿のコントロールができなくなった方について、リハビリパンツ等の練習をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様が受診出来ない時には、スタッフが対応したり、体調変化時には、専門医に相談したりしている。ストーマ使用の方が入居の際には、訪問看護師から指導を受け対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	絵本読み聞かせや、訪問美容、敬老会や忘年会の時の外部社中の慰問等で時には参加したりしながら楽しんでいる。花壇の手入れやオレンジガーデンプロジェクトに参加することが出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続で、利用者や家族は安心されている。家族の受診が難しくなった場合には相談の上別の医療に変更することができる。	基本的には家族同伴で入居前のかかりつけ医を受診している。通院等が困難な状態になった場合には、家族の意見・要望を確認の上で訪問診療に変えるなど、適切に医療機関の受診は適切に行われている。受診時には医師に説明し、資料を提供しているほか、必要に応じて、動画も提供している。訪問診療受診後は、家族への報告やカルテへの記録を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問日に日々の情報提供をし、診療して頂いている。特変時には、24時間対応をしていたり、対処していただいたり、指示をいただいている。		

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	今年度は、転倒骨折のため入院されたが、長期間の入院はご本人にとって良い影響を与えないので家族や医療と相談し、早期退院をした。施設内で生活リハビリを行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し、ここの施設では対応が難しくなった方が特養へ移られた。看取りの方については、身寄りの方がいないと思っていたのが、引き受けてくださる身内の方がいてとても安心しました。	開設以来、20人以上の看取りを行っている。そのため、職員全員が看取りの経験を有し、利用者・家族の要望に応えることができている。身体機能が低下し入浴が非常に困難となり、事業所での対応ができない利用者については、対応可能な施設への住み替えを奨めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、必ず訪問看護ステーションに連絡し指示を頂いている。医療が到着するまでの対応は出来るが、自己判断しないよう注意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、火災発生時の避難訓練を近所の方のご協力を得ながら行った。夜間時も行い避難場所や避難経路の確認訓練をした。夜間の危険度強の確認をした。	大家の協力を得て通常火災、夜間想定 of 訓練を実施し、併せて職員への通報、参集訓練も行っている。ハザードマップ上の地域指定、避難場所を確認しているが、消防署の助言により、2階の踊り場への避難としている。食料の備蓄、ガスコンロ、カセットコンロを確保している。今後、ソーラーの活用を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれ声掛けや対応方法を変えている。スタッフと常に一緒にいい方、ひとりで過ごしたい方、言葉がうまく出ない方等々、個性的な方が多い。	入浴時の異性介助の問題はないが、希望があれば対応している。職員間で情報を共有する際には、個人名は使わないよう留意している。個人情報事務室で管理し、機関紙への写真掲載は予め家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身の意思で行動している。言葉がうまく出ない方でも表情などでくみ取ったり自己決定しやすいよう2~3種類から選んでもらったりしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ソファに座り、読書や居眠り。居室でテレビを見る。など一人ひとりが自分のペースで過ごされている。体操やレクリエーションなども、声掛けはするが参加は自由である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分好みのおしゃれをしている。時には、季節や気温に合った物を着られるよう何気なく声掛けをしながら好みと合ったものを選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	まずは、香りや音などで意識してもらいながら切り方や、柔らかさ等に注意しながら、スタッフも一緒に食事している。テーブル拭きや、下膳、お茶碗拭き等は、個々に合わせ手伝っていただいている。	献立、食材の確保、調理は職員が行なっている。近隣住民からの野菜の提供や家族から果物やおやつ差し入れがある。スイトン、温麺、粕酒など、希望に応じている。節句ごとの料理のほか、誕生会のケーキ、敬老会の豪華弁当、寿司なども提供している。利用者に調理の下準備を手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は、チャートや申し送り等で確認しながら対応している。水分量が少ない方については、無理の無い程度に声かけし摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。ひとりで出来ない方、介助が必要な方については職員が対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁してもトイレでの排泄を心がけている。自覚がない方については、時間に対応したり動きや表情などで判断しトイレ誘導している。	寝たきりの利用者以外はトイレでの排泄支援を行っている。排泄チェック表で動向を把握し、それとなく様子を見て対応している。自立者は3名で他は見守り、ふき取りなどの支援をしている。カテーテル使用1名、ホータブルトイレを4名が使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事形態などや、運動などで便秘にならないように心がけているが、それでも無理な時には医療と相談して体調に合わせた内服薬で調整している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴時間はもうけている。ご本人のタイミングに合わせている方もいる。冬場は2~3日おきぐらいになっている。1対1での会話ができる大切な時間であるので気持ち良く入れるような声掛けをしている。	入浴回数を週に何回と決めずに、利用者の状況に合わせている。声掛けをしても拒否的な方には無理強いせず、時間を変えたりし、毎朝清拭をしている。重度化した場合は、シャワー浴で2名の職員が対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝時間はそれぞれ違う。夜間も比較的良く休まれている。昼も、ソファでくつろいだり、居室で休まれたり自由に過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し、安全に服薬できるよう支援いただいている。薬の説明書をファイリングしており、すぐ確認できるようにしている。内服薬の調整中の方が1名いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除(モップがけ)や、洗濯干し、洗濯たたみテーブル拭き等、できる範囲で手伝ってくださる。散歩、行事等に参加し楽しんでおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩、ご家族と外出し食事や受診など出掛けられるようになった。衣類を買うため、利用者さんと出掛け、洋服を購入出来た。近くの公園にザル菊がとてもきれいに咲いていたので出掛けたりした。	天気の良い日は、日向ぼっこを楽しんだり、ベランダで洗濯干しなども行なっている。遠野の道の駅に出かけ、食事や買物を楽しんだ。数人で花見、菊見学、ジェラードを食べにドライブに出かけたりしている。通院の帰りに家族と出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己監理できている方は1名しかいない。買い物の際は、一緒に行き立替で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯や電話したいなどと申し出る方は今はいない。ご家族から、お手紙や贈り物が届く事はある。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りを展示している。オープンキッチンのため、作っているところや香り、音を感じる事ができる。浴室は一人ずつゆっくり入っていただいている。	リビングには、食事用のテーブル、ソファ、テレビ等があり、利用者は、思い思いの場所で寛いでいる。1階は大型の引き戸で、2階は天窓があり、室内は明るく、壁には利用者の作品や写真などが飾られている。近いうちに、みずき団子作りをして出来上がったものを飾る予定である。家族からの鉢や切花の提供もある。温度は蓄熱、エアコンなどで適正に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり、その時、その場所でゆったりと過ごされている。時には利用者同士で楽しく会話したり居眠りしたりして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持って来ている方もいるが、そうでない方も居心地よく過ごされている。テレビを持って来られたが全く使用せず転倒し怪我をしたりしたのでお返した例もある。	ベッド、クローゼット、蓄熱暖房が設置され、利用者はテレビ、筆筒、家族写真、遺影写真などを持ち込んでいる。利用者の意向に沿った配置、居所となっている。表示は、個人名、花など、希望に沿って対応している。センサーは2名が使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使って移動したり、歩行器や車いすを自在に動かし、自分の行きたい所に自由に移動できる。2Fへ行く事もある。トイレや洗面所も好きな所を利用することができる。		